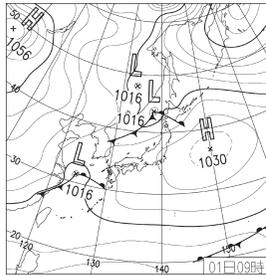


日々の天気図

—No. 215

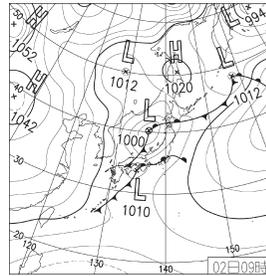
2019年12月

- ・2日、大気の状態が不安定、東日本の所々で竜巻などの激しい突風。
- ・24日、沖縄県西表島で約120mm/1hの猛烈な雨。12月の記録的短時間大雨観測発表は2010年以来。
- ・西～東日本の月平均気温かなり高く、12月1位を記録した地点も。
- ・日本海側の月降雪量が記録的に少。(気象庁予報部予報課)



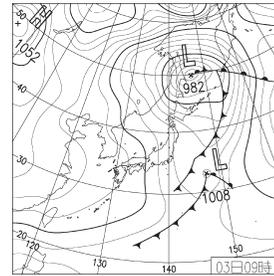
1日(日)近畿で初霜や初氷

東シナ海と日本海北部の前線を伴った低気圧が東北東進、西日本と北日本は次第に曇りから雨となり、北日本では雪の所も、沖縄・奄美と東日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。



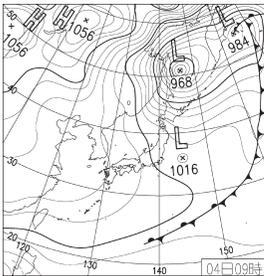
2日(月)全国的に雨

前線を伴った低気圧が日本海から北海道に進み全国的に雨。北海道は所々雪、暖かく湿った空気が入った静岡県や神奈川県は大雨、静岡県天城山は日降水量141.5mm。



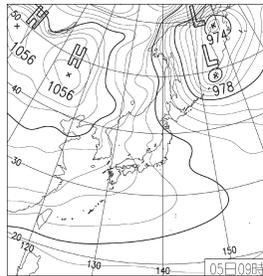
3日(火)冬型の気圧配置

オホーツク海で低気圧が発達し強い冬型の気圧配置。北日本日本海側は雪で猛ぶきの所も、西～東日本日本海側は曇りや雨または雪。北海道よりも岬で最大瞬間風速38.3m/s。



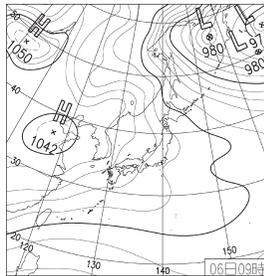
4日(水)北日本暴風雪

北海道と東北日本海側は雪。北海道よりも岬で最大風速31.1m/sの猛烈な風となるなど暴風雪の所も。山陰～北陸は雨で、標高の高い所は雪。宮崎で初霜、由布岳で初冠雪。



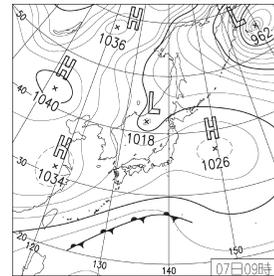
5日(木)東北日本海側で大雪

日本付近は強い冬型の気圧配置が続く。北日本日本海側は雪。山陰～北陸は雨や雪。東北で大雪となり山形県折折で日降雪量58cm。沖縄は気圧の谷の影響で雨。



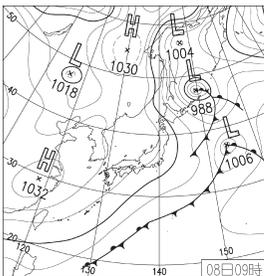
6日(金)冬型の気圧配置は緩む

沖縄・奄美は湿った空気の影響で雨。沖縄近海は気圧の傾きが急で、所野の最大風速21.7m/sは12月1位。西～北日本は日本海側中心に雪や雨。5地点で初雪。中国・関東は今季初。



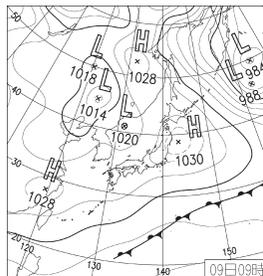
7日(土)日本付近は気圧の谷

日本の南に停滞前線があり、日本海の低気圧は前線を伴いながら東北東進。沖縄～東日本は曇りや雨で、雪の所も。北日本は日中晴れるも夜は雪に。脊振山で初冠雪。横浜で初雪。



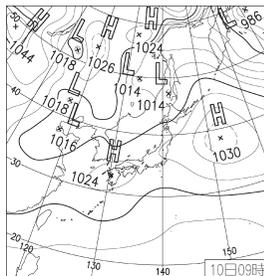
8日(日)東京で初霜

寒気の影響で山陰から北の日本海側は所々で雪や雨。冬型の気圧配置が緩み、日本海の高気圧に覆われ。西～東日本日本海側は夕方以降晴れた所も。鹿児島と宮崎で九州初の初氷。



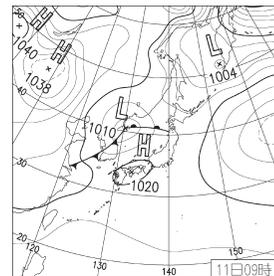
9日(月)高気圧に覆われる

華中と三陸沖の高気圧に覆われ晴れた所多いが、高気圧の縁にあたる東海～関東は曇り夕方から雨の所も。北海道は低気圧が接近し、夕方から日本海側で雪。前橋で初雪。初氷。



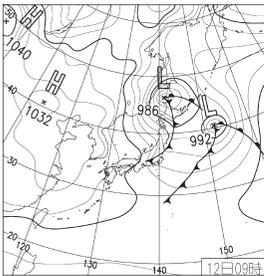
10日(火)冷え込み緩む

北日本は気圧の谷の影響で雪や雨。その他は概ね晴れたが関東は湿った空気により午前中は雨。関東や北海道を中心に朝の冷え込みは緩み、最低気温が平年より6℃以上高い所も。



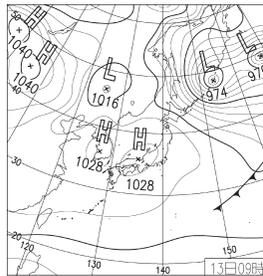
11日(水)宇都宮イチョウ黄葉。最晩

前線を伴った低気圧が日本海を東北東進。北日本は日本海側を中心に午後は雨や雪。関東は本州南岸の低気圧の影響で夕方から雨や雷雨。高気圧の縁に位置する沖縄・奄美は雨。



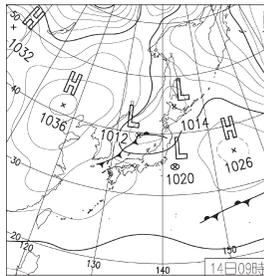
12日(木)北日本で暴風雪

前線を伴った低気圧がオホーツク海へ北東進し冬型の気圧配置に。西～東日本日本海側は雨や雪。北日本は暴風雪。北海道よりも岬で最大瞬間風速40.5m/s。北海道で震度5弱。



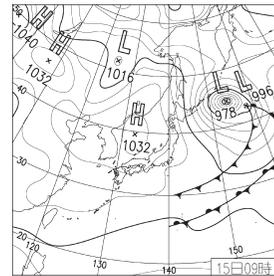
13日(金)冬型の気圧配置緩む

高気圧に覆われ晴れた所が多いが、東日本太平洋側は気圧の谷の影響により曇り弱い雨の所も。北日本日本海側は寒気の影響が残り曇りや雪。熊本、佐賀で初氷。大分で初霜。



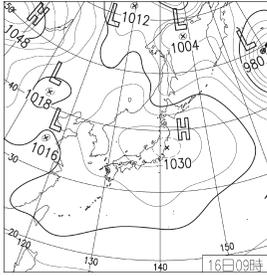
14日(土)寒冷前線通過

低気圧が北日本を東北東に進み、寒冷前線が本州を通過。山陰～北陸及び北日本は雨や雪。秋田県の5地点で1時間降水量の12月1位。栃木県奥日光では最大瞬間風速29.4m/s。

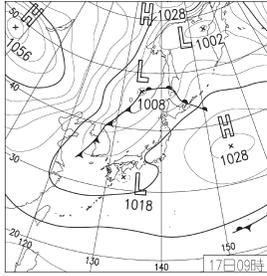


15日(日)千島近海で低気圧発達

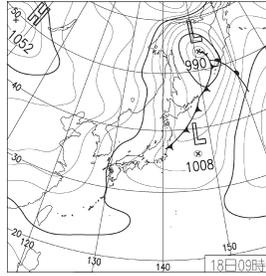
千島近海の低気圧や寒気の影響で北日本は所々で雪。北海道は気圧の傾きが急で、釧白では最大瞬間風速26.2m/s。沖縄～東日本は日本海の高気圧に覆われ晴れや曇り。



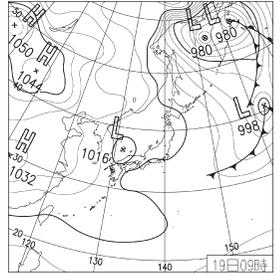
16日(月)鳥取で初霜・初氷
 広く高気圧に覆われ、本州を中心に日中は概ね晴れ。高気圧が日本の東へ移動し、西日本～東海では午後は西から次第に雨。北海道は気圧の谷の影響で、日本海側を中心に雨や雪。



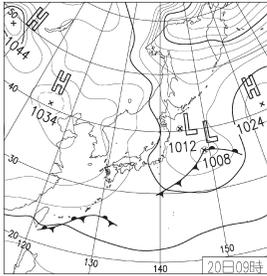
17日(火)沖縄は各地で夏日
 日本の南の低気圧や日本海から近づく前線の影響で、西～北日本は雨。大気の状態が不安定となり、東京都神津島で28.5mm/1hの強い雨。沖縄は晴れて那覇27.5℃など各地で夏日。



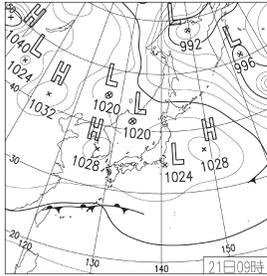
18日(水)全国的に高温
 前線や気圧の谷の影響で沖縄～東北は曇りや雨。北海道は雪。南からの暖気の影響で気温が上昇。全国の450を超える地点で最高気温が平年差5℃以上に。鹿児島県で震度4。



19日(木)青森県で震度5弱
 冬型の気圧配置は緩んだが、北海道日本海側は雪や曇り。西～東日本は低気圧や気圧の谷の影響で概ね曇り、山陰～北陸、関東では雨の所も。南西諸島は前線の影響で次第に雨。



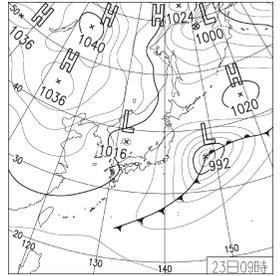
20日(金)北海道は各地で真冬日
 日本付近は冬型の気圧配置で、山陰から北の日本海側は雪や雨。山形県肘折で日降雪量37cm。沖縄・奄美は停滞する前線の影響で雨。西日本～東日本の太平洋側は概ね晴れ。



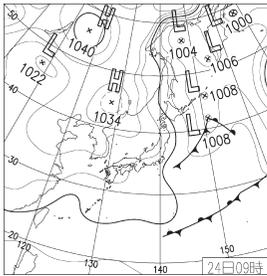
21日(土)関東は暖かい朝
 沖縄～九州は前線により雨。鹿児島県笠利37.5mm/1hは12月1位。関東は低気圧により所々で雨。北陸～北日本も別の低気圧の影響で雪や雨。関東では朝の最低気温が11月中旬並。



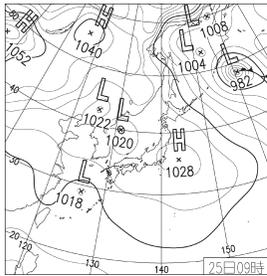
22日(日)沖縄～東北部は雨
 前線を伴った低気圧が日本の南を東北東進。沖縄～東北部は広く雨。内陸や山地は雪。北海道は寒気の影響で日本海側の所々で雪。カロリン諸島で台風第29号発生。甲府で初雪。



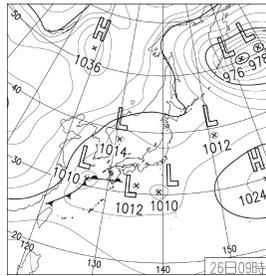
23日(月)山梨県河口湖積雪24cm
 日本の東の低気圧の影響で、東日本太平洋側と東北は朝にかけて雨や雪。本州の日本海側は、日本海を東進する低気圧の影響で次第に曇って雨や雪の所も。榛名山で初冠雪。



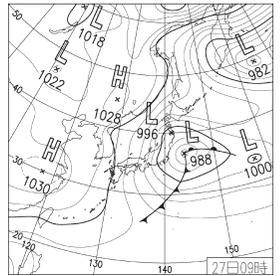
24日(火)先島諸島で猛烈な雨
 日本付近は冬型の気圧配置で北陸から北の日本海側は雪。東シナ海は気圧の谷となり、南西諸島は大気の状態が不安定。沖縄県西表島で記録的短時間大雨情報発表。



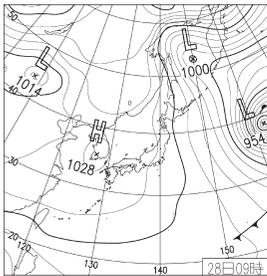
25日(水)2つの低気圧が東進
 本州付近は日中晴れたが、日本海を東に進む低気圧の影響で北日本は午後には曇りや雪。西日本は東シナ海から低気圧が接近し次第に雨。鹿児島県中種子で40mm/1hの激しい雨。



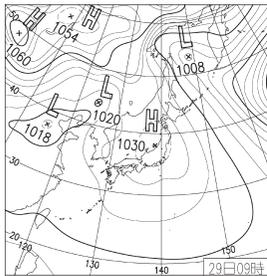
26日(木)西日本などで暖かい朝
 沖縄から東海は前線を伴う低気圧の東進と共に雨雲が次第に広がる。北陸～東北は日本海を東進する低気圧が接近し雪や雨。西日本中心に朝の最低気温が10月並。



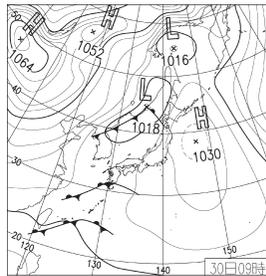
27日(金)冬型の気圧配置
 前線を伴った低気圧が関東の東に進み、次第に冬型の気圧配置に。西～東日本の日本海側は雨や雪。太平洋側は朝まで広く雨。北日本は東北を通過した低気圧の影響で曇りや雪。



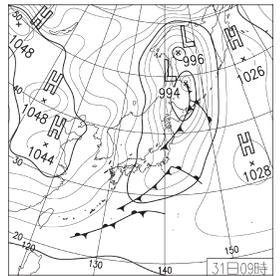
28日(土)大分、静岡で初氷
 冬型の気圧配置は緩み、西から次第に高気圧に覆われる。日本海側は曇りや雪だが、西日本では晴れた所も。太平洋側は概ね晴れ。福井は平年より26日遅い初氷を未明に観測。



29日(日)天気下り坂
 本州付近は高気圧に覆われる。北海道の雪も弱まり全国的に晴れたが、前線や湿った空気の影響で西から次第に曇り、南西諸島や西日本では午後は雨の所も。津、名古屋で初氷。



30日(月)全国的に雨や雪
 前線の影響で沖縄～東日本は雨や雪。和歌山県潮岬では47mm/1hの激しい雨。東北も午後には雨や雪。日本海北部の低気圧が接近した北海道は夜に所々で雨や雪。

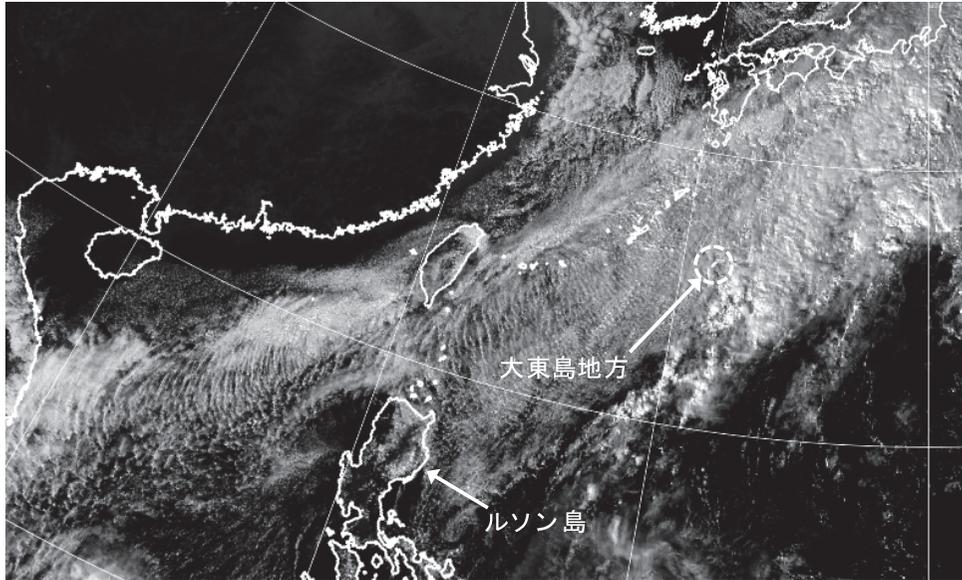


31日(火)松山市でウメ開花
 北日本を寒冷前線が通過し、次第に冬型の気圧配置が強まる。北陸や北日本は雨や雪。福島県山田の最大瞬間風速25.7m/sは12月の1位を更新。彦根、津で初雪。



今月のひまわり画像—2019年12月

ルソン島の東岸に達した筋状雲

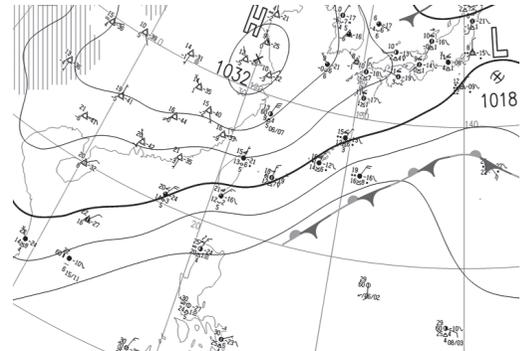


第1図 2019年12月7日15時（日本時間）の西日本から南シナ海にかけての可視画像。

冬季において、西高東低の冬型の気圧配置になると、日本付近には大陸から寒気が流入し、海上には筋状の対流雲がよく見られるようになる。大陸の高気圧の中心が華中や華南に位置する場合は、南シナ海でも北東の季節風による筋状の対流雲が見られることがある。

第1図は、2019年12月7日15時（日本時間）の西日本から南シナ海にかけての可視画像で、第2図は、第1図と同時刻の地上天気図である。地上天気図では、長江下流に中心を持つ高気圧があって大東島地方付近から南西に気圧の谷がのび、高気圧と気圧の谷との間で等圧線の間隔が狭くなり、下層の寒気移流が強まって、北東の季節風が強く吹く状況となっていた。可視画像では、大東島地方付近からルソン島や南シナ海にかけて、季節風による筋状の対流雲が見られ、対流雲は、季節風の風向と直交する雲列「T (Transverse) モード雲」となっていた。

南西諸島付近から南シナ海にかけての北東の季節風に伴う対流雲は、通常は台湾海峡や台湾海峡とルソン



第2図 第1図と同時刻の地上天気図。

島の間を通して南シナ海に流入することがほとんどである。しかし、本事例（12月7日～8日）では、大東島地方付近から南西にのびる気圧の谷の影響で、対流雲は大陸から離れたルソン島の東岸にまで流入し、ルソン島の東岸では、日本でいう「しぐれ」のような天気となっていた。

（気象庁予報部予報課 西 峰雄）